

地域包括ケアに関する取組み

〇概況

令和6年3月末現在

<p>【人口動態、地形、生活環境等の地域特性】</p> <p>城南区は市のほぼ中央部に位置する住宅・文教地区である。区内を縦貫する地下鉄七隈線や横断する平成外環通り等の整備により、交通利便性の向上が図られている。大規模団地に加え中小の宅地開発が進み、急速に市街地化・住民の定住化が進んだ結果、全市平均を上回るスピードで高齢化が進み、高齢化率が全市で1番高い状況である。</p> <p>【高齢者の状況（高齢化率や介護保険受給者状況）】</p> <p>高齢化率は全市で1番高率だが、別府校区の20.2%から堤丘校区の34.8%と校区でも幅があり、特にUR等大規模団地を抱える町内では高齢化が進んでおり、独居・閉じこもりや認知症、8050問題等の高齢者支援の取組みが急務となっている。</p> <p>【社会資源（介護サービス事業所や医療機関、地域コミュニティの状況）】</p> <p>地域における高齢者向けのサロンやカフェ等は新型コロナウイルス感染症の影響で、活動を中止した地域も多かったが、R4年度から徐々に活動が再開しており、現在は以前に戻っている。医療機関や介護事業所の分布は圏域毎に異なり、病院は区内9か所。区内の福岡大学病院は、平成26年に認知症疾患医療センターの指定を受けている。</p> <p>令和4年4月より城南警察署が開設され、さらに連携が取りやすくなっている。</p>	人口（人）	126,564
	高齢者数（人）	32,614
	高齢化率（%）	25.8
	小学校区数 （自治協議会数）	11
	いきいきセンター 圏域数	5

〇地域包括ケアに関する現状と課題

- ・市民の医療・介護等について事前に備える必要性への意識は、まだ低い印象がある。在宅医療・介護に関する市民啓発が、今後更に必要である。
- ・医療・介護の専門職は各団体で計画された研修会にて同職・多職種間の連携強化・資質向上が図られているところだが、今後ますます加速する高齢化への対応を進めていくためには、専門職の更なる在宅医療・介護に関する知識向上及び連携強化を進めていく必要がある。
- ・認知症高齢者や単身高齢者の増加に伴い、金銭管理や消費者被害などの権利擁護に関する相談が増加している。支援を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で安心して自分らしく生活を続けることができるよう、地域での見守りなども含めた関係機関との連携が一層求められている。
- ・介護予防については「よかトレ実践ステーション」の登録推進により、目標登録数を達成しているが、メンバーの減少や活動日の縮小など登録を辞退する団体が増加傾向にある。既存団体の活動の継続支援を強化するとともに、身近な場所で介護予防の取組みを実践できるよう新たな通いの場の創出等取組みを継続していく必要がある。

1. 令和6年度取組みの中で、特徴あるもの

取組内容

①在宅医療・在宅介護の推進に向けた取組み

【市民啓発】

- ・これからどんな人生を歩みたいか、自分らしく最期を迎えるために前もって考える取組みであるACPの重要性について講演会を行う。
- ・エンディングノート・チラシ『もしものためのACP』のPR活動の継続。

【専門職向け】

- ・ACPは死だけを見つめるのではなく、「もしもの時のために、自らが望む生活や医療、介護について、前もって考え、周囲の信頼する人たちと繰り返し話し合い、共有する取組み」であるということケアマネジャーや専門職へ啓発していくことが必要である。これはケアマネジャー本来の役割、支援者の本質であるため、ACP（意思決定支援）の研修を継続して実施。
- ・本人の意思決定能力やACPの支援方法に困惑や疑問を感じた場合など、チームで情報共有しチームで考え、本人たちと繰り返し話し合っていくことが大切である。適切な意思決定支援のプロセスを踏まえた上で、チームで対応できるよう支援する。
- ・高齢者にみられる心身の変化について正しく理解していなければ、対応方法を間違ふこともあり、適切な支援にはつながりにくい。認知・聴覚・発声発語・摂食嚥下機能など高齢者の理解を深める研修会を実施予定。
- ・個別支援会議等に参加し、ACPの視点で検討するよう支援する。
- ・エンディングノート・チラシ『もしものためのACP』のPR活動の継続。



②よかトレ実践ステーションの創出及び活動支援

よかトレ実践ステーション施設版は、令和2年度以降、計画的に創出を行っており薬局や整骨院、区内全ての公民館等が登録されている。今後も身近な場所で取組みが継続できるように活動支援を強化するとともに新たな集いの場創出にも取り組む。また、eスポーツを活用した活動支援が行えないか検討を行っていく。

2. 令和5年度の取組状況

(1) 地域ケア会議の状況

① 個別支援における成功事例、課題など（個別支援会議の傾向など）

個別支援会議開催状況	・会議回数：12回/ 22件（内、介護予防型個別支援会議 5回/ 15件）
------------	---------------------------------------

② 住民同士の助け合い・支えあい活動

『よかトレ体操はじめます！』 ～城南区全ての公民館がよかトレ施設版として登録～

令和5年7月の公民館連絡会で、館長・主事を対象によかトレサポーター（はつらつメイト）養成講座を開催しました！



**令和5年度
よかトレサポーター
（はつらつメイト）養成講座**
～「よかトレ」を学び、健康づくりのサポートをほじましょ～
～人生100年時代、健康寿命を伸ばし、いっしょになっついても生きがいをもっと増やそうと、楽しみながら健康度を高めるための活動が「よかトレ」です。介護予防に役立つことが実現になっていきます。

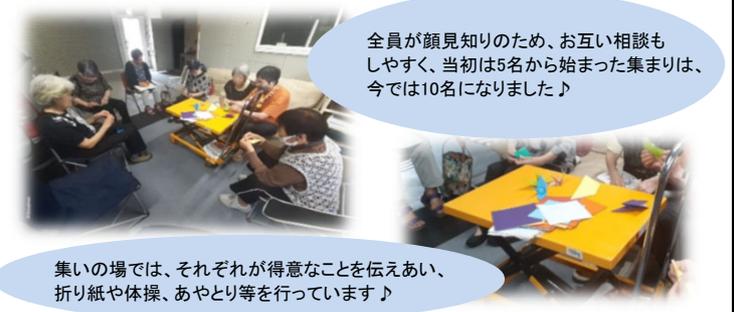
※参加費は講座費（お茶代）のみです。お申し込みは「よかトレマップ」の「サポーター」として登録していただきます！

日時	7月3日（月）15時～16時
会場	「よかトレ、よかトレ実践ステーション」について説明
内容	・実践体操 （奥田体操、足元体操、ラジオ体操） ・お茶の「よかトレ実践ステーション」として取り組み事例紹介 ・はつらつメイト認定証贈呈 ・お茶や折り紙などで参加ください。 ・タオル・水分補給（飲み物）をご持参ください。
連絡先	お問い合わせください。

城南区にある11の公民館では、「毎週曜日を決めて”や”公民館講座前の隙間時間を利用して”など、工夫を凝らして地域住民の健康づくりにご協力いただいています♪地域の身近な集いの場である公民館がよかトレ実践ステーションになったことで、フレイル予防の一つである『社会参加』を促すことにも役立っています。

『地域の声から始まったカフェ』 （南片江3丁目）

令和5年2月、南片江3丁目にて見守りもかねた集いの場が誕生！
毎月最後の週の月曜日の13時から、個人宅の空きスペースを活用して茶話会を開催しています。近隣の住民が見守りを行う一方で、集まる場所は、見守られる側が無償で提供。お互いが支え合う場となっています。



全員が顔見知りのため、お互い相談もしやすく、当初は5名から始まった集まりは、今では10名になりました♪

集いの場では、それぞれが得意なことを伝えあい、折り紙や体操、あやとり等を行っています♪

高齢者地域支援会議 開催状況	会議開催校区数：校区、延べ回数：3校区 7回 検討内容：高齢者を見守るネットワークづくり、校区交流会（見守りマップ作成）、校区の社会資源についてなど
-------------------	---

③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組み

「ACPを活用した意思決定支援について」 令和5年度城南区ケアマネジャー研修会

令和4年度、地域ネット支援員が城南区内のケアマネジャーに対してACPに関する意識調査を実施した。その結果として、ケアマネジャーの多くはACPを最期の生死の時とっており、家族から聞き取り決めているという意見だった。ACPは本来ケアマネジャーの業務そのものであることを確認し、ACPの正しい理解や実践方法、また死に対する受け止め方、向き合い方を学ぶ必要性を感じ、今回研修会を企画した。ACPにおける意思決定支援とは何か、死は誰にでも訪れ避けられないものであることを理解し、その受け止め方、向き合い方を学ぶことでケアマネジャーの本来の役割を再認識することを目的とし、内容はACPに関するケアマネジャーの意識調査報告と講演会「意思決定その前に ACPのその前に」とした。アンケートでも「参考になった」という結果がほとんどであった。ACPの実践のもととなるものに気づきを促す内容であり、死に対する受け止め方、向き合い方を学ぶ機会になったと考える。

圏域連携会議 開催状況	・会議回数：1回 第3圏域（片江・南片江） ・検討内容：地域と介護事業者の顔の見える関係づくり、お互いの役割を理解する。町内単位の地域課題の抽出につながる。
----------------	---

④ 区レベルの取組み

<市民向け> ①将来に備える「初めてのアドバンス・ケア・プランニング」を実施。目的はACPを正しく理解し、自分にとって何が大切かを考え、意思決定の一助となることとした。結果として、事前に今後の生活、大事にしているものなど話をすることが大切であること、本人・家族と専門職は対等な関係であり、インフォームド・コンセントが重要であることを再認識できた。と考える。

<専門職向け> ①7月3日城南区認知症キャラバン・メイト連絡会を開催。目的は認知症の親を看取った家族から、様々な出来事や思いを聞きながら、支援の在り方を深めることとした。家族から生の声を聞くことで家族の思いや心の変化について知ることができた。制度ありきではなく、専門職と地域がつながり、共有することの大切さを学び、キャラバン・メイトの今後の活動のヒントとなったと考える。

②講演・ワーク「支援者の本質～支援者としての心得」の実施。29名の参加。大変興味深い良いものとなった。2時間の研修もあっという間に感じるほど、参加者は集中して参加されていた。

区地域包括ケア 推進会議開催状況	・区地域包括ケア推進会議：1回 高齢者保健福祉相談事業等報告、地域包括ケアに関する取り組み報告等 ・専門部会：①在宅医療・介護部会：1回 ②権利擁護部会：1回 ③生活支援・介護予防部会：1回
---------------------	--

(2) その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取組み、事業所ネットワークの活動等

取組	具体的内容
多職種連携研修会（医師会委託事業）	区内3ブロックの拠点病院が中心となって、ブロック毎の研修会を開催。 ・Aブロック：事例検討「自宅退院の希望が強い、独居超高齢者」グループワーク ・Bブロック：事例検討「複合課題を抱えた対象者に対するアプローチ」グループワーク ・Cブロック：事例検討「障がい者の息子を持つ要介護3の寡夫の自宅退院希望を叶える」グループワーク
在宅医療に関する市民講座（医師会委託事業）	福大病院健康セミナー「住み慣れた地域で自分らしく～在宅医療と介護について～Ver4」をテーマに講演会を実施。
同一業種による連絡会開催 ①城南区ケアマネ会 ②訪問看護ステーション連絡会 ③地域密着部会	①今年度より、主任ケアマネとケアマネ会を合同開催。世話人会1回、研修会5回開催。 ②県訪問看護ステーション連携強化事業はR3年度で終了。連絡会や勉強会の後方支援を4回実施。 ③世話人会を1回開催、部会を2回開催。世話人も変わり、新規一転し部会として事業所として地域と関わりを模索中。
事業所ネットワークの活動	校区単位や圏域を超えた範囲で地域貢献・共働きの活動や個別ケースへの支援等を行うネットワークが4つ結成している。1事業所ネットワーク（シニアP）は、コロナ禍でも連絡会の開催や個別ケースの支援を実践しており、当該は後方支援を行っている。今年度、「別府校区をいろいろな立場から考える会」から「つなぐまちべふネット」が立ち上がった。